討　　議

第20卷第4號　昭和9年4月

琵琶湖運河及日滿運輸聯絡問題

（第 19 卷第 12 號所載）

著者　會員　工學博士　田　邊　朔　郎

琵琶湖運河及日滿運輸聯絡問題につき會員大島太郎氏の御説は誠に御尤な事と考へます。私の調べた事を基として種々な意見をたてらるゝ方は他にもあります。私は大島氏の如く御説の發表さるゝを希望して已まない次第であります。

私の調査したものは説を作製する基礎資料であります。現在の狀態では營利會社の仕事としては採算の取れにくいものであるが，國家としては考へ可きものであると云ふ概觀であります。これを基として私も一二の氣付いた事を述べて見ます。

我邦の將來に於ては，英國に於て勞働者に對する方法や，又は無料宿泊所を設ける方法は宜しくない，働いた結果で生存することにしなければならぬ。無用の土木は宜しくないが他日役に立つ土木事業は起工して都合次第に進めることが社會問題解決の一である。この事業の如きはその適例であらう。

工場敷地の地價は特別なる事情のあるものゝ外は安價でなければ普通の資産勘定としては採算が取れないものである。工場敷地として作つたものが他の用に賣れる例もある。しかし大阪の東部に於ける地積の如きは，種々なる點から考へて優秀な位置であるが，資本を多くねかしては採算上不利となるとも考へらるゝが，或る未來を考ふれば，或る變動はあるべけれども，ベルギーの或る大會社の如く資本金僅かに1フランのものもある，イタリーにもこれに似たものもある，資本の償却法も絶對にないとも云へない。土地，勞力，資本を以つて生産の原素と考へたこともあるが，資本を以つて土地も勞力も購へるとすれば，これ等は原素ではない。寧ろ生産原素は，空間，物質，動力，方法，時間であると考ふる時代も來ると思はれる。生産物が製作費，原料費だけに止まる事情となれば最便宜の位置のものは天下無敵となる，この工場地帶の如きは，かゝる場合を考ふれば適切なところである。

大阪東部の地積はその廣袤から見てもその全部を使用しても動力 150 萬キロ位よりこなし得ぬと思はれる，職工數にしても 150 萬人か 200 萬人位のものであらう，これ丈では世界に向ふ日本としては不足である。北陸にも，北九州にも，東海にも，關東にも似た計畫をたてゝ調べて見る必要はなからうか。